

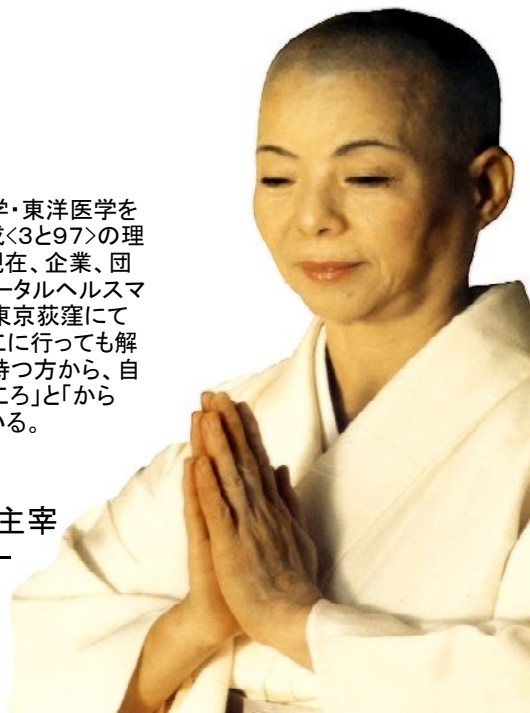
けやき

第38号(2014年秋号)

発行日：平成26年10月
発行者：心健導場主宰 天明
住所：〒167-0052
杉並区南荻窪2-7-12
TEL：03-3334-2527

宮崎県出身。深層心理学・哲学・東洋医学を研究し、1992年にその集大成「いのち」の理論を著書「いのち」に著した。現在、企業、団体、カルチャースクール等でトータルヘルスマネジメントの講演活動を行う。東京荻窪にて主宰する「心健導場」では、どこに行っても解消されなかった心身の悩みを持つ方から、自己能力を開発したい方に、「こころ」と「からだ」のカウンセリングを行っている。

天明 てんめい
心健導場主宰



天明・ハワイ報告特別号

まさかの時には、 自分を守るDNAが必ずONになる

天明と名乗ってから50年間、「いのち」について真剣にお話してきました。そしてこの50年間に、日本も、世界各国も、1つの大きな問題を抱えるようになってしまいました。それが、「高齢問題」です。人類はその叡智と技術で人生80年、90年という“長寿”を手に入れました。昔は長生きは幸せの象徴でしたが、いまではどうでしょう。必ずしも幸せであるとはいえないようなそんな時代になってしまったのではないのでしょうか。

この「高齢問題」は、この21世紀に生きる私たちに初めて出てきた問題です。「これからどうすればいいのか」。あなたは自分の老いをどう捉えておられますか。国に頼ればなんとかしてくれる。病院、医師に頼れば病気もなんとかしてくれる。すべて国任せ、他人任せではありませんか。みかづき会100回特別講演の講演者である中村仁一医師は、「老病死は誰も代わってはいけません。現代人はこれと向き合おうとしません」と仰います。この老いに向き合うとは、自分の「いのち」に向き合うことです。天明は、「自分のいのちは自分で守る」とお伝えしてきました。これは、長寿時代をどう生きるのかの答えは、「自分の中のいのちに聞け」ということです。

みかづき会を行ってきた南木曾は、この7月、突然の鉄砲水で残念ながら大きな被害を受けてしまいました。そして8月は、広島で大惨事が起き、9月には、東京代々木でのデング熱騒動や長野の御嶽山が噴火し、関東圏の地震多発から首都圏直下地震や富士山の爆発の危機が叫ばれるようになりました。災害はいつどこで起きてもおかしくはない。これを肝に銘じてもらうためにも、もう一度、申し上げます。

「自分のいのちは自分で守る」。

これまで天明は、「まさかの時にどうするのか」を具体的にお伝えしてきました。

安心ください。

まさかの時には、ちゃんと自分を守るDNAがONになりますよ。

南木曾でも、みかづき会でご縁している方々に信じられないような奇跡が起きました。

11月8日には100回記念会がありますし、毎年6回の定期講演をしていますので、天明と南木曾に同行して、この奇跡の体現者の話をぜひとも聞いて頂きたいと思います。



南木曾宮川町長へ、災害見舞金を手渡す

やはり、意識の変化の時がきている

～ハワイにて

今年の8月は、40年間働きづめできましたので、自分へのご褒美と聖地を巡り充電してパワーアップすること、そして今後4冊目の本の下書きを目的に、ハワイ島、オアフ島、カウアイ島を訪ねてきました。

8月5日出国し、ホノルル空港でハワイ島に伺うための乗り継ぎをして、ヒロ空港に着きました。

なんだろう？

なにかが違う？

と直感しました。

ヒロに来て2日目、滅多にこない台風がハワイ島に22年ぶりにやってきました。しかも、大型台風が2つ、続けて。

ハワイ島のヒロ地区は水没し、そのため、ライフラインはすべてストップ。大変な状況になったのですが、宿(MAKOAマコア)は自家発電設備があり、雨水をろ過して使用しているので、幸いにして大丈夫でした。

MAKOAは、四方八方を牧場に囲まれていて(もともと牧場だった所に宿をつくった)、前方には海、水平線、空が広がっています。360度見渡す限り、あるのは草原と海と空だけです。

庭には、ロバが7頭、ヤギ5頭、シベリアンハスキー犬2匹、ねこ1匹、そしてにわとり数羽が同居しています。

私は人一倍、感性が鋭いと自負していますが、広大な牧草地の真ただ中にたった一軒建っているMAKOAの大自然に包みこまれて安心し切った感じになったからでしょうか、このハワイ島ではその感性が一切働かなかったのです。

ヒロ空港に降り立った時に感じた、なにかが違う！！
……(これを表現できる言葉がありません)

ハワイ島は島全体がボルテックス(エネルギーの渦)と言われていますが、ここで感じたのは、なにかわかりませんが、なにかが違う…… のです。

一番行きたかった「ワイピオ渓谷」は北の次元の扉があると言われる神聖な場所ですが、台風のために残念ながら行くことができませんでした。



MAKOAマコアのロバたち

それでも、キラウエア火山にはこの台風の中で行ってきました。

8月9日、オアフ島に戻る夕方の便がまたしても2つ目の台風のために飛ばないかもしれないというので、14時の便に変更してオアフ島に戻りました。

ホノルルではワイキキビーチが見下ろせる、アストンワイキキピーチタワーを宿としましたが、朝6時、19階のベランダからコーヒーを飲みながらボーと外を見ていますと、小さな光の玉がだ円になって、「だ円の輪」が乱舞しているように観えました。楽しそうに、輪と輪が飛び交っている。

こんな光景をここオアフ島では、9日から31日までの毎日観ました。(写真をみてください)

26日の朝には、その光のだ円のなかに、クラゲのような物体、変わったものが左から右へ、右から左へと動いている。その物体は4つくらいだったように思います。

中心は黒っぽくて、回りはグレー色でヒラヒラしている。

なに！！

クラゲ！！

ひょっとしたら、これがUFO？



朝日、光の輪(19Fより)

これが素粒子なのか？光の粒がだ円を描いて飛び交っている。
娘の携帯電話には撮られていない。この光の輪を9日から31日まで毎日観ていた。

一日中、ボーとして何もせずに過ごすこともありました。せっかくハワイまで来たのにどこにも行かないのはもったいないと思われるかもしれませんが、あれこれと計画を立てるよりも、何も考えずに過ごす、瞑想状態。気づけば夕方ということもありました。

とにかく時間の感覚がありませんでした。
時が流れているのか、止まっているのか。気づけば、「こんな時間か」といった感覚で1日が過ぎて行く。
言い換えれば、「いまがあるだけ」ということでしょうか。
こんな不思議な感覚は初めてでした。

過去にこんな光は4度観ています。

1. インドにて：一面に小さな尾をつけている
2. ロンドンにて：すき間ないほど光の粒が降り注いでいる
3. 東京神楽坂：マインドコントロール修業中(40分業)
太いほうきのような光の矢が飛び込んでくる
4. オアフ島ホノルルワイキキ：楽しそうに踊っている
光の形はこの4回全て違いました。



↑ アストンワイキキピーチタワー19F
ベランダ、眼下にワイキキビーチ
←19Fベランダからの夕日

このハワイ(オアフ島)では、毒のある生き物(毒へび、毒虫、毒植物等)の毒がだんだん消えて行くのだそうです。

一般にハワイと言うと、オアフ島のホノルルワイキキのことを指しますが、どこに行ってもハワイの人は親切です。

移動手段はタクシーですが、5人で定員オーバーだと運転手さんがワゴン車タクシーを呼んでくれます。びっくりです。世界中から観光客が押し寄せる理由もこのハワイ独特の「波動」にあるのかもしれませんが。これは、7年前にホノルルマラソンに参加した時には感じなかったことです。

カウアイ島の「シダの洞窟(聖地)」に行きたかったので、1日ツアーに参加しました。27年前に一度訪れていますが、もう1度「来たい」と思った所です。

一瞬なのでカメラではうまく撮れませんでした。七色の虹が天空から降り注いで……。このカウアイ島には刑務所がありますが、塀がないのもびっくりでした。夕方は庭でバーベキューをして、歌って踊って。

日本では考えられないことですね。



シダの洞窟(聖地)

27年前に行き、また「来たい」と思っていた所です。プレスリーが結婚式をあげて有名になりました。シダの景色は変わらなかったが、沼地(田んぼ)だった所がステージになって世界中から結婚式をあげに来るそうです。天空より7色の光が注いでなんと美しい。また来られてよかった。ありがとうございます。この7色の光、ガイドさんに言っても、「見えない」と言われました。



↑ 町教授にご案内して頂いたハワイ大学
↓ ワイキキヨットクラブで、NPOハワイシニアライフ協会のイベントに招待して下さったスタンレイ・チズさんにお会いしました。おかわりなく元気で、面会に感謝。会長の坂井様にお会いして協会の会員になりました。20分間の講話をしました。



17日、ハワイ大学外科教授の町淳二先生にお会いするのも、楽しみの1つでした。

町先生は、大学構内を車で案内くださいました。夏休み中なので学生はいませんが、学校内はあまりに広くて、迷い子になりそうです。町先生は、日本人の若い医学生に月に一度帰国して、日本とアメリカの医師の意識の差を憂いて指導されていらっしゃいます。どうぞ日本の若い医師が海外で通用する医師に育つための援助をお願いいたします。

帰りに、ハワイのAMラジオ局1210のアナウンサー・カーリンさんをご紹介下さり、ハワイに居る間にスケジュールが合えば、ラジオのインタビューをしてもらえるよう後押ししてくださいました。

それから、「いつ、返事のメールが来るのか」と楽しみにして28日までメールチェックをしていましたが、来ないので、「急なことだから無理だったか」と思いこんでいました。

8月31日、日本への帰国の途に就き、9月1日に帰国。翌日、9月2日の朝8時、メールを確認すると、カーリンさんからなんとメールが届いていたのです。

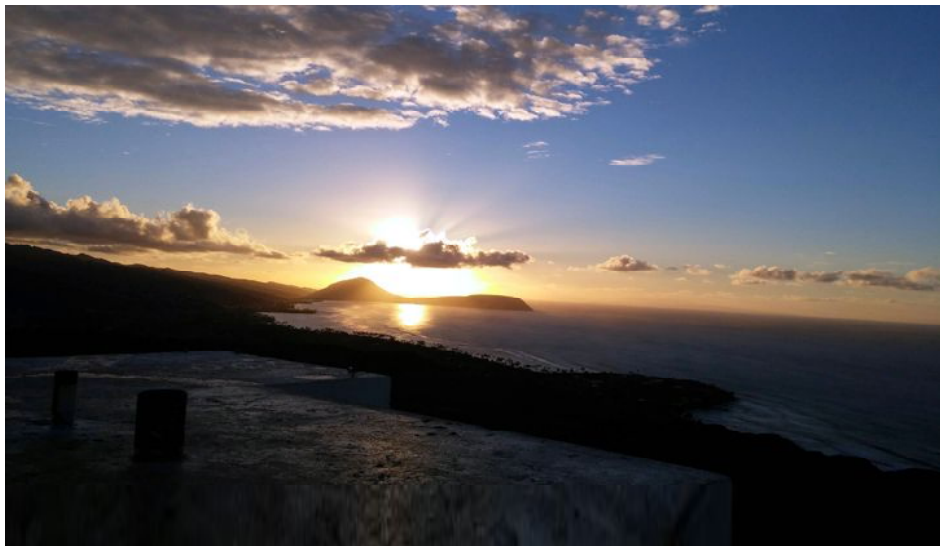
「30日14時にお会いしてインタビューをしたい」との伝言。帰国して気づくとは、残念でした。

『最後の最後まであきらめてはいけませんよ』と、いつも皆様の前でお伝えしているのに、改めて自分自身の言葉に気づかされた感じです。

ハワイには、古代から「ホ・オポノポノ」と呼ばれる、こころの癒やしの方法があります。日本でも数年前に本で紹介されて知られるようになりましたが、「ありがとう」「ごめんなさい」「許してください」「愛しています」の言葉を繰り返すことで実践されるとするこの有りようは、米国流というよりも、なんだか日本の縄文を感じさせます。

青森の三内丸山の縄文人たちが船で太平洋を渡って、ミクロネシアや中南米に移り住んだ(縄文学協会・小田静夫先生)ことがわかっています。

このハワイにも古代縄文人たちが移り住んだとしても、なんら不思議ではないのです。



↑ ダイヤモンドヘッド登山

普通は30分で上るのを、40分かけて上りました。朝日合掌、有難うございます。7年前、ホノルルマラソンでダイヤモンドヘッドの周りを走りながら、いつか来た時は登頂すると誓ったことが実現しました。

→ アカカ滝

この滝は150メートルの落差を誇るハワイ島の大滝、こも聖地です。「龍」が登っているようにみえませんか。



「これでいいんだ」と思えるためにやってきた



ウクレレ教室に参加しました



つい最近前まで出雲大社内でした
聞けなかった八雲琴を 岡田様が演奏

今回のハワイにやってきたのは、本当の目的は2つありました。

長年の構想だった、「生命いのち」の本の原稿をこの大自然の中で書くことでした。

しかし、いざハワイに着くと、不思議なオーラに包まれて、何もしないでただ瞑想の日々を過ごすことが続きました。

これまでであれば、「なぜできないんだろう」と自分を問い詰めているところでしょうが、なぜか、「これでいいんだ」と満足して日本に帰ってきました。

日本に帰ってきて考えますと、1ヶ月間のハワイ滞在の本来の目的は、「自分をこれでいいんだと思えるようになること」であったようにも思えます。

ハワイ独特の「ホ・オポノポノ」のありがとう、ごめんなさい、許してください、愛していますといった言葉の波動が自然と心の中へ響いてきたのでしょう。

「3と97」、「3 (あ)」、そして「自分のいのちは自分で守る」。

これをいままでと同じようにこのまま伝えていけばいい。

天明と名乗った原点に気づかされたこのハワイの1ヶ月間でした。

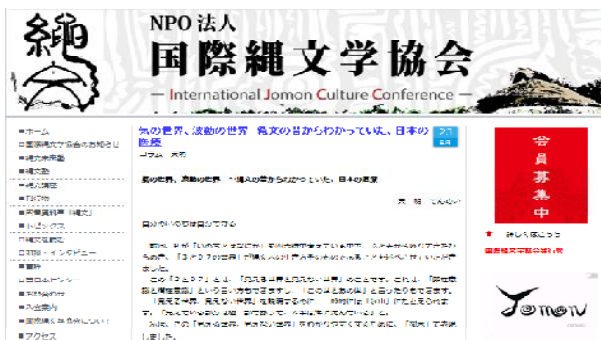


ハワイでは、人とウミガメが同じ所で泳いでいます。



NEWS 天明の縄文コラム

- 第1稿 縄文人は「3と97」の宇宙の法則で生きていた
- 第2稿 氣の世界、波動の世界
～縄文の昔からわかっていた、日本の医療
- 第3稿 縄文人たちは自然から健康的に生活できる場を知っていた
「気圧と健康の意外な関係」
- 第4稿 縄文人たちが気付いていた「医食同源」
それは「旬」にあり
第4稿はアップ準備中です。お楽しみに!!



NPO法人国際縄文学協会のホームページをご覧ください。

「みかづき会」ご案内

お知らせ

11/8

土曜13.00から

みかづき会100回特別講演

大往生したけりや医療とかかわるな

天明×中村仁一講演会

自然死のすすめ 自分が頂いた生命は自分で守る

聴講料 無料 自由参加

東京からのツアー企画しています。お問い合わせください。

場所/ホテル木曽路別館 <http://www.hotelkisoji.jp/>

〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻2278

TEL:0264-58-1126 FAX:0264-58-1234



主催
みかづき会特別講演会
実行委員会

2014年 天明講演会 毎月第1土曜日
13.30から開催中

10/4 11/1 12/6

会場は、
阿佐ヶ谷
に移りました

演題

天明の「いのち」のはなし

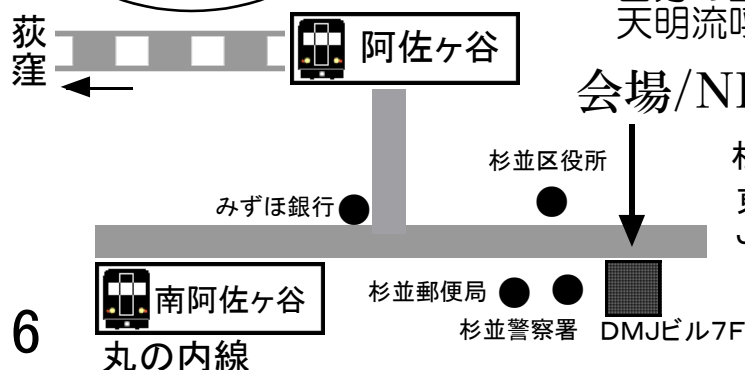
自分の生命は自分で守る。春夏秋冬の天明氣功・
天明流呼吸法、活源運動、自分でできる手当法

会場/NPO法人生活支援センター 宙(そら)

杉並区成田東4-38-17 DMJビル7階

東京メトロ南阿佐ヶ谷駅 1番出口徒歩2分

JR阿佐ヶ谷駅 徒歩14分



予約問い合わせ 03-5377-7005